全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第40号(平成24年10月号)

秋色 ＜秋の景色＞

Photo by Joh Tadamichi

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　仲野十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿55-8-205　ナカジュク内
TEL:03-3963-5572　FAX:03-3963-2529
Mail:center-office@shijyuku.net

理 事 長　湯口　兼司
TEL03-5743-7458
広報部長　大住　明敬
TEL048-957-8608

「学習塾百年の歴史－塾団体五十年史」出版祝賀会・報告会・懇親会開催される

私塾ネット関東 教務部長　加藤　実

平成24年９月16日（日）、東京芝公園の「東京プリンスホテル」プロビデンスホールにて午後３時より「『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』出版記念祝賀会・報告会・懇親会報告」が行なわれた。以下その報告をしたい。

主催は全日本学習塾連絡会議、**後援**は日本私立中学高等学校連合会・一般財団法人東京私立中学高等学校協会、社団法人千葉県私立中学高等学校協会、一般財団法人神奈川県私立高等学校協会、社団法人埼玉県私立中学高等学校協会。**協賛**は（社）日本青少年育成協会・NPO全国教育ボランティアの会・埼玉県私塾協同組合・茨城県学習塾協同組合・千葉県学習塾協同組合・群馬学習塾協同組合・神奈川県私塾協同組合・愛知県私塾協同組合・（社）神奈川県学習塾連絡会・全日本私塾教育ネットワーク・民間教育連盟・私塾協議会・新しい学校の会・学校教育支援調査会・青森県学習塾協議会・塾教育研究会・進路指導研究会・日本教育ペンクラブ・学校外教育研究会・関西私塾教育連盟・関西私塾の会・泉州私塾連合会・京都私塾連盟・奈良県学習塾連盟・富山県学習塾協議会・岡山県私塾連盟・広島私塾連盟・鳥取私塾の会・香川進学研究会・愛媛学習塾連盟・とくしま塾教育研究会・福岡学習塾連盟・佐賀県私塾協会・北海道私塾連合会・大井町から教育を考える会・パソコン教育推進協会・長野県高校入試統一テスト協会・名古屋進学塾連盟・全日本JJT・日本教育者セミナー・TSKネットワーク。協力は私塾会・塾ジャーナル・声の教育社・進学研究会・CKT・創育・新教育研究協会・中村出版・アーリーバードカンパニー、教育開発出版・あおき印刷。

第一部式典でのご挨拶。左より表紙絵の作者小嶋良三先生、編集長佐藤勇治氏、副編集長菅谷友豊香氏、題字作者の大塚智子氏。

「学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－」は全日本学習塾連絡会議が発行した本であり、**編集長は佐藤勇治先生**、その編集長を強力にサポートしたのは**副編集長の菅谷友豊香先生**。本書は160人の執筆者、24人の編集委員が携わり、６年の年月をかけて1170頁もの大作が平成24年４月５日に発刊されたのであ

る。百年の塾の歴史、50年の塾団体の歴史を見事にまとめあげられている。その出版を記念して250人もの学校関係者、塾関係者、業界関係者が集うたのである。素晴らしい！！

坂田義勝全日本学習塾連絡会議代表幹事、中嶋浩一一橋大学名誉教授、平林正吉文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長、大島九州男参議院議員、實吉幹夫東京私立中学高等学校副会長、名城政次郎沖縄尚学高等学校・附属中学校理事長ご挨拶の「記念式典」、下村博文衆議院議員、西村和雄京都大学特任教授、和田孫博灘中学高等学校校長等ご挨拶、増澤　空社団法人日本青少年育成協会の乾杯の「懇親会」。多才で錚々たる顔ぶれであった！

大変なご苦労をされ、塾から学校を作られた土佐塾・土佐塾中学高等学校理事長の福島先生、片山学園中学高等学校理事長の片山先生、朝日塾中等教育学校理事長鳥海先生は偉大です。遠いところお疲れ様でした。湯梨浜中学・高等学校理事長坂根先生、お会いしたかった。

名進研の豊川先生は111冊、ナガセ社長の永瀬先生は100冊も買われたとか！他にも100冊の先生お二方、80冊もお二方、40冊、30冊各お一人と佐藤先生を側面から強力にバックアップ。計241名の先生方が浄財を提供されたとか。佐藤先生の個人的負担が少しでも軽くなれば幸いである。

私も「島本時習塾三代記」「綜合教育研究会と下町の塾」「全国私塾連盟の歴史（後期）」「編集委員会の足跡と本書発刊への道程」の４本を寄稿している。塾に限らないが、後継者の育成は急務である。後継者がいなければ閉じるしかないのである。ただ塾業界は再編が進んでおり、個人塾の生き残りは極めて難しい状況にある。「教育」は「ビジネス」ではないという方々も多く存在しており（学校の教諭等）、そういう点で言えば「塾業界」とは「水と油」なのである。また「塾」は何をしているのかという問題もある。「学校の補完」でいいのかということ。「ゆとり教育」に手を貸し、「学力の低下」を招いた責任は塾にもあるのではないかということだ。

錚々たる方々が集まり、発言されたのであるが、如何せん限られた時間内でのこと。少々物足りないところはあったが、これだけの大著が完成したのは佐藤勇治先生、菅谷友豊香先生あったればこそであろう。お疲れ様でした。
それにしても佐藤勇治先生の人脈にはただただ驚くばかりである！

社団はどうしたのだ？その他在京の塾団体でありながら知らん顔の団体もある。これはどうしたことか？その団体はこの記録以上のものが作れるというのか？

20基もの生花であふれた受付。これから250名ものお客様を迎える。

各界から多士済々のお客様が馳せ参じた。いずれも出版の偉業を称え、佐藤先生へねぎらいの言葉が贈られた。

東京私立中学高等学校協会の實吉幹夫先生（左）、（株）ナガセ代表取締役社長永瀬昭幸氏。

遠路お祝に駆けつけられた私学界の重鎮。灘中学高等学校学校和田孫博校長（左）と沖縄尚学中学高等学校の名城政次郎理事長。

この原稿依頼、当日受けたのであるが、前もって言って欲しかった。原稿をまとめるとなるとデジタルレコーダー、デジイチ、ビデオ等の準備も当然必要なのである。万全の準備をしておかないと満足できる原稿など書けないのだ。

理事長　コラム

理事長　湯口 兼司（香川県 ・湯口塾）

今年の夏の終わりに、初めて私塾ネット関東の合宿に、広島若竹塾の佐藤将紀代表と参加いたしました。元立教大学の厚生施設だったという別荘は本当に立派なもので、なにより一日中流れている掛け流しの温泉が素晴らしかったですね。夕食は谷村会長が腕を奮い、それを若い先生方が手伝うという、まさに合宿そのものでした。仲野先生が言う『研修とかが無く、みんなが集い、ワイワイ騒ぐのも良いでしょう。』同感です。来年からは四国も『二回ある研修会のうち一度は懇親だけの場も良いな！』と思いました。翌朝、授業のある佐藤先生、柳田先生と共に６時起きで近くの駅まで送ってもらい、東京、広島、四国へと帰省しました。有難かったのは佐藤先生が指定席を持っておられるのに、自由席の私の席まで来てくださり、岡山までご一緒してくれたことです。先生とは20年以上の交流がありますが、道中初めて聞く話も多く、『36,500円の月謝は決して高くない！』と初めて実感しました。本当に真似の出来ない凄い方です。

さて、10月28日に私塾ネット四国『秋の研修会』がオークラホテル丸亀で開催されます。塾暦50年の城忠道氏、新塾長になられて4年『その後の若竹塾』を高橋博先生が、東京、千葉の激戦地区で頑張っておられる仲野十和田事務局長と田中宏道研修部長、特に田中先生には某〇〇セミナーの千葉での動き等について語っていただきたいと考えています。後、四国からは小野塾・小野昭先生の中学数学、シャンティ進学塾の黒川博信先生の英語と盛りだくさんです。お陰で今日現在全国からの参加者は谷村会長、鈴木副会長を筆頭に80名近くあり、四国での新記録となりそうな盛況ぶりです。

みなさんにお会いするのが本当に楽しみです。

10月8日、広島での塾の日記念式典でのひとコマ。なにやらとてもハッピーそうな皆さん。湯口理事長を囲んで「イエー！」

私塾ネット四国「秋の研修大会」

日時　平成12年10月28日（日）１２；３０　受付開始
場所　オークラホテル丸亀　（12Fエメラルドの間）
763-0011　香川県丸亀市富士見町三丁目3番50号

進行　13；00　開会のあいさつ　本部、来賓のあいさつ
13；30　第一部　パネルディスカッション
・ベテラン塾長おおいに語る　城忠道先生（芸城学院）
・その後の広島若竹塾　高橋博塾長（若竹塾）
・東京、千葉の塾事情とこれからの塾
田中宏道塾長（LAPIS鎌ヶ谷）・仲野十和田塾長（ナカジュク）
司会とむちゃぶり　湯口兼司代表　（湯口塾）

15；20　第二部　教科書改訂後の教科研修
その１　中学数学　小野昭塾長　（小野塾）
その２　中学英語　黒川博信塾長（シャンティ進学塾）
16；50　まとめと閉会のあいさつ
17；00～18；00　休憩（宿泊の先生方はここでチェックインをして下さい）
18；00　懇親会（１２F　エメラルドの間）

20；30　閉会
21；00～　二次会（１２Fカトレアの間）

瀬戸内から強力2トップ参加で、おおいに盛り上がった伊豆の夜

今年も、恒例となりました『私塾ネット関東懇親旅行』へ行ってまいりました。今回の目的地は伊豆の伊東、その名も「伊豆クリスタル迎賓館」。我々が宿泊するにふさわしい（笑）ネーミングで、いや本当に施設は素晴らしかったです。今後塾のイベントやプライベートでのご利用も是非お勧めいたしますので、ご興味のある方はコチラまで⇒

http://www.aco.co.jp/izucrystal/index.php

さて、話を元に戻しますが、毎回このお話を書かせていただくときは、いつもお天気の話から始めさせていただいているのですが、これはもうすでに有名になりました「鈴木先生雨男伝説」が基にあるからなのです。この旅行も数える事８回目。全行程で雨が全く降らなかったのは２回だけで、その２回に参加をされなかったのが鈴木先生であるわけです。ですから、今回も東京駅に集合した時はすっきりしない曇り空。そこからマイクロバスに乗り込み、最初の休憩場所である海老名ＳＡに到着したら、案の定、土砂降りの雨。あたかも自分が降らせているかのような、じーっと天を仰ぐ鈴木先生の後ろ姿が印象的でした。あっ、遅れましたが今回の参加者は、関東から雨男鈴木先生、我らが谷村先生、運転お疲れさまでした仲野先生、マイギター持参の中村直人先生、賛助会員からエドベックの千葉さん、デザインオフィススズキの鈴木さん、ナカジュクスタッフの岩瀬先生、渡辺塾スタッフの三井先生、私渡辺の９名が、そして、中国、四国から理事長湯口先生、若竹塾佐藤先生の強力２トップが熱海から合流し、総勢１１名での懇親旅行となりました。

現地に到着すると、手慣れたものでまずはキッチンチェック。谷村シェフの指導のもと、備品から作業スタッフの動線チェックをこなし、さっさと夕飯の買い出しへと出かけて行きました。残ったメンバーは温泉（この貸別荘には源泉かけ流しの天然温泉大浴場が２つもあるんです！）を楽しんだり、早速塾談議に花を咲かせたり思い思いに過ごしました。

さて出来上がった夕食は、素人レベルをはるかに超えたメニューになります。肉、野菜バーベキューはもちろん、湯口先生からの差し入れで本場香川のうどん、谷村先生お手製の一品料理など、毎回の事ですがこれが楽しみ！と言っても過言ではないです。ぜひまだ召し上がった事のない先生は次回是非ご一緒しましょう。

そして、夕飯も食べ終わり２次会？（なんとカラオケ設備もばっちり備わっているんです）へと流れる中、サプライズゲストが！なんと、当日ＪＡＣの納涼船を楽しんでいたはずの柳田先生が新幹線を乗り継ぎわざわざやってきてくれました。到着したのはすでに１２時頃でしたので、彼は結局歌って、風呂入って、また歌って、少しだけ仮眠して、朝一、湯口先生、佐藤先生とともに早々に戻られました。いつ見てもエネルギッシュです。今回の旅行ですが、賛助会員の鈴木さんが１分間ほどのムービーにして作ってくれました。このムービーは私塾ネットＨＰ⇒http://shijuku.net/　にアップしてありますので、是非お楽しみください！また来年もやりますよ！！

文責　私塾ネット関東総務部長　渡辺塾　渡辺浩

クリスタル迎賓館を背景に専用テニスコートで。だが、我々が被写体だと「迎賓館」が「下品館」と見えるのはなぜだろう？

→皿洗いも楽しく軽快に。佐藤先生とエッドベックの千葉さん。よく働くんだこの方々。
↑うどん県の湯口知事が「釜あげうどん」についてレクチャー。

２０１２年「中高進学相談会」開催される！

2012年「中高進学相談会」が今年もNPO塾全協の主催で、９月９日（日）の１１：００～１５：３０まで新宿NSビルにて開催されました。私立中高校１３３校が参加。東京・千葉・埼玉・神奈川の各県の私学や生徒・保護者が参加する大きなイベントです。参加の私学はそれぞれのブースで、受験生などに詳しい説明をしています。又、２３年度の公立・私立入試に関する特別セミナーの講演も実施されました。当日は、業者による模擬試験と重なっているとのことで、来場者の出足が鈍く、心配をいたしました。しかし、１１時過ぎ頃から次第に来場者も増え、私学の先生の前にも多くの生徒やご父兄が並び始めました。

私の担当した入試相談コーナーにも、漸く相談者が訪れ始め３人の先生で対応を致しました。保護者と一緒に来た女生徒は、自塾の塾長を見つけて元気が出たようでした。又、ある女生徒は一人で来場し、第２外国語も学びたいのですがと、色々と細かな質問をしていました。

入試相談コーナーで相談に応じる筆者。
後方は宝田学習塾（東京）の宝田先生。

今年は、昨年と違って具体的な志望校を相談するだけでなく、成績との兼ね合いから難しいと思われる高校入試に関して、どのようにすれば良いのかという保護者からの切実な相談が多くありました。学校や塾でも対応してもらえないのでというものもありました。生徒間格差が大きくなり、行き場のない生徒が迷っていることが伺えました。一方では、しっかりと将来を見据えて志望校選びをする生徒もいて、楽しみに思いました。私塾ネットからは他に桂馬先生・宝田先生が相談者として対応していました。安藤進理先生は朝早くから受付に居られましたし、光先生は作業や私学の先生との対応もされていました。鈴木先生は私学の先生方とお話をされていました。今年も大きなトラブルも無く、相談者もそれなりに満足して帰って頂けたものと思います。　　文責・向学館（埼玉）　監物一男

私塾ねっと誌上句会　第十二回

選者　梶原賢治（私塾ネット副理事長）

秋風に　野山も子供も　衣替え　　岸部雄一（北海道）
星空と　秋刀魚漁火　水平線
どこの風景かと考え込んだら、北海道の岸部先生の句。選句とは恐縮ですが、よろしくお願いします。この句のような、動静、光と闇に溢れる雄大な光景をいつかは見たい気持ちにさせられました。

信念は　心のゆとり　家族愛　　石田治正（東京都）
風そよぐ　瀬戸内の島　月宿る
絵に描いたような宮島の紅葉と月でしょうか!?

あんぽ柿　あえて求めん　福島産　　谷村志厚（千葉県）
秋色の　組み木細工の　田畑かな
全く箱根の組み木細工に似て美しい風景ですね。田園風景は、春夏秋冬に渡り日本の宝。東北の田園風景の回復を心からお祈りします。

秋刀魚焼く　香りを肴に　大吟醸　　長江勝秋（神奈川県）
紅葉散り　池に紅葉　色の鯉
錦絵のような紅葉の句、あちこちの紅葉の名所に行った気分になります。全快をお祈り申し上げます。

秋空に　見とれ列車に　乗りそびれ　　中村直人（神奈川県）
洗濯と　共に取り込む　金木犀
鼻の奥が金木犀の香りでいっぱいになると同時に近所の金木犀の木が思い出されました。

秋麗の　塾舎に一人　思考せり　　十亀幸雄（愛媛県）
定年や　庭に葡萄の　皮飛ばし
私も一人何かを食べる時には、自然とこんな風情になります。

蔦盛り　あるじなき家を　蔽いけり　　梶原賢治（埼玉県）
落葉松の　金濃くなりて　富士に雪

宮城県石巻市・震災復興学習支援　レポート
出前寺子屋「検定合格講座」

石巻出前寺子屋事務長　谷村 志厚

２０１１年８月１６日に始まった震災復興学習支援活動「出前寺子屋・検定合格講座」は、本年６月の漢検・英検の実施をもって、私塾ネット主催行事としては一区切りをつけました。このことは広報３９号に特集として掲載し、会員の皆さまに報告をさせていただきました。７月以降は、主管・AIM学習セミナー、後援・私塾ネットの形で第３期の活動として継続しています。

１０月現在の講座在籍者は、漢検３１名、英検１３名が登録されており（重複有り）、月２回のスクーリングには２５名程度の参加者が来られます。別表は昨年秋以降実施しました漢検、英検の実績です。この数値でおわかりの通り、皆さんたいへん優秀な成績を記録されています。ことに漢検では講座開始以来一年を経て、準１級受検予定者が６名もいることがそのレベルの高さを示しています。

さて、以下は毎回発行しています活動レポートの一部です。たいへん好評であった第28回スクーリングのレポートを要約します。

漢字検定実績・５８名受検中合格者５２名
２級 - １３名、準２級 - １４名、３級 - １２名、
４級 - ４名、５級-４名、６級 - ３名、７級 - ２名
（小中学生16名、一般36名）
英語検定実績・１２名受検中合格者１２名
準２級-１名、３級-４名、４級-４名、５級-３名

◆活動報告その２８［２０１２年９月９日］

9月9日、第28回目のスクーリングに東京から同行したのは、春亭右乃香(しゅんてい･うのか)さんである。彼女は日本に10人はいないと言われる、寄席文字のプロの書き手である。寄席文字とは、相撲文字、歌舞伎勘亭流とともに江戸文字とも呼ばれる独特の書体である。墨痕黒々と太く丸く書くのが特徴で、書道というよりはレタリングに属するものだ。主に落語、浪曲といった演芸のビラや出演者名を掲示する「めくり」等で使われている。彼女は大学のサークルの後輩なのだが、石巻出前寺子屋で漢字検定の講座を開いていることを知って、石巻行きを志願してくれたのである。スクーリングではフラワーアレンジメントのような、学習の合間の息抜きの時間を設けている。そこで今回はそのイベントに「江戸・寄席文字の世界」と称する講演と実演を行うことにしたのである。

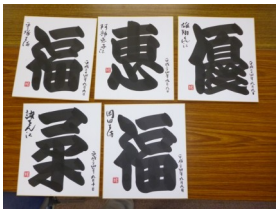
この日の受講生は漢検講座に14名、英検講座に13名だが、重複受講生がいるので実質24名である。午後2時30分、全体集会が始まる。いつもの通り我々スタッフの自己紹介から始まり事務連絡をすませ、早速右乃香さんの紹介となった。都内で寄席文字のカルチャー講座を受け持っていることもあり手慣れた様子で、寄席文字のなんたるかを説明する。引き続いて実演にうつると、受講生の皆さんを自分の周りに集める。筆を持つ手元がよく見えるようにとの配慮だ。漢字に興味をもち寺子屋に通う方々なので、彼女の話と筆遣いに大変興味をもたれた様子で、身を乗り出すようにして彼女の手元を見つめていた。

震災後病気をされ、ひどく体調をくずされたまま漢検講座に通って来られているSさんという方がいる。この方が右乃香さんの紡ぎだす文字にことのほか感動された様子で、「元気がでる字ですね」とさかんに声をあげられていた。この日の試みの成功を確信することができた一瞬であった。

そして締めくくりに、漢検準1級を受検される5名の方々に、合格祈願の一字をお贈りし、28回目のスクーリングの感動イベントは幕を閉じたのである。

－後略－

右乃香さん（左から2人目）の書かれた看板の前で、この日の指導スタッフの記念写真。



準１級受検者に贈られた合格祈願、激励の一字。

右乃香さんの筆遣いを身を乗り出して見つめる受講生の皆さん。
「夢」の一字を模範として書上げ寄席文字の特徴を説明する。

英検３級講座風景。３人の中３生と１人のお母さんが受講生。後ろに台所と冷蔵庫が見えるのは、いかにも出前寺子屋らしい風景。

2012年度私学情報交換会開催される
私塾ネット関東　10月21日　東京ガーデンパレス

今年で24年目の第30回「私学情報交換会」が御茶ノ水の東京ガーデンパレスで行われました。

初めに病気療養中の長江関東代表に代わってセンター副会長の鈴木関東代表代行より「私学がどんな建学の精神で、どんな教育をされているのかを我々は知りたいが、そのためにはその場にいる先生の本音を一番に知りたい、これがこの会の主旨です。」との挨拶がありました。また、司会の桂馬先生からも現場の先生の足跡を知ることから私学の良さをわかりたいとの話がありました。少子化の中、厳しい教育環境を打破するには私学と私塾の協力こそ大切ですがこの会はその橋渡しをしていると実感しました。しかも、今年お話いただいた先生方は皆さん最近新しい学校に変わられ、教育改革にまさに突進されている方たちで、いやがうえにも教育の大切さを実感する時となりました。お話いただいた先生方はご登壇順に次の4名です。

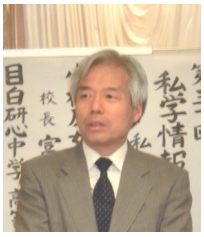
・小松原女子高等学校校長　富樫　強先生
・目白研心中学高等学校校長　松下　秀房先生
・東亜学園高等学校校長　矢野　隆先生
・文教大学付属中学高等学校校長　星野喜代美先生

夢に向かって目標に日々邁進する

早実野球部から日体大に行かれ、体育教師から教員生活が始まった富樫先生。体格と信念を持って教育に携わってこられた貫禄がにじみ出ていました。今回の小松原女子高校が４校目とのこと。食品に関する専門学校にもかかわり、料理の鉄人の陳健一さんとも親交があるなど興味深いお話もありました。60歳で小松原に来られ学園統括の教務部長をされていたが8月前校長の他界により校長職になられたとのこと。人に負けることが嫌いで、チャレンジ精神が旺盛。埼玉では偏差値の低い学校を新しく改革しようとされています。その片腕ともなる先生も集まって来られている由。夢を持って目標に邁進する先生に塾人としてすがすがしさを感じました。他用があるとのことで懇親会に参加されなかったこと、色々とお話を聞きたかったので残念でした。

私学の４人の先生を迎え、開会の挨拶は鈴木エリア関東代行。

勉強は先生と生徒が一緒に取り組む団体戦



数学に関して一家言を持たれている松下先生。定年退職後自分の思いを達成したく、野球の延長戦のつもりで働いているとのこと。4年前に男女共学、校名も変更して臨んだ学校ですが、まだ進学校としてのコンテンツが不足と言われる。教員たちがまだまだ仕事の流れを見極めていないと厳しく話されるその姿は塾人の教師研修にも繋がるものとして、大変興味を持ちました。総合力のある教員育成のため141枚もの資料を作成とのことです。すごいです。何しろ今日のお話のためにも13枚のレジメを用意下さいました。ありがとうございます。勉強は先生と生徒が一緒になって取り組む団体戦、部活終了後も午後８時ぐらいまで勉強させることもあるようです。またお得意の数学についても興味深いお話を下さいました。数字遊び、誕生日当てゲームなど日頃の塾の授業に取り入れられるお話感謝します。

上場会社勤務のキャリアを学校改革に活かす

小5の時、初めて四谷大塚のテストを受け3割ぐらいしかできなかったが、落合学院に通い家庭教師も来ていただくことで中学受験をしたと話される矢野先生。航空学にも興味を持ち、東芝に入社。東亜学園の理事長の娘さんと結婚。その経緯で今があると経歴を話されました。関東大震災の時に創立された東亜学園を、新しくしたいとの重いから色々な改革に取り組まれています。点数の悪い生徒には金･土･日と合宿させる取り組みなど興味深いです。勉強しない子供にどうやってさせるかのノウハウを教えて下さって感謝です。今の子供達は失敗しそう

で、つらそうなことにトライしない者が多いです。でもそれを経験させ気骨を鍛えること、なにくそと立ち向かうことが大切と話される先生に頼もしさを感じました。世のため、人のため、そして自分のためになってこそ社会人として一人前ですとおっしゃること、確かです。

都立中高一貫校の実績を私学経営に託して

3月まで都立高校の校長をされ、4月から私立高校の校長を始められた、元気おばさん（失礼）。色々な都立高校を経験され、それこそピンからキリまでを知りつくされた教育観に大変興味を持たされた星野先生。都立高時代、教員は胡坐をかいてはいけない、教育には金がかかるがきちんと宣伝することが大切と話された内容は、私立高校にもかかせない、塾人にも基本となることばです。特に、経歴のお話は成績上位の子、下位の子も指導されそのノウハウをしっかりもたれているようで、今度時間があればお話を聞きたいと思いました。とくに小学高学年から中学にかけての時期に勉強をしっかりやらせることの大切さを聞き、私の思いと全く同じだったこと有り難かったです。教員としっかり話し、それを一つにまとめることが校長の仕事と言われる。6年計画で国公立大学10名以上を目指すとのこと。応援しますよ。

会の最後の挨拶はネット顧問の安藤先生が、各校の先生方のご苦労を讃えられました。

引き続き会場を２階の天空の間に移動して懇親会が開かれました。今日は池袋で別の学校説明会が行われているにもかかわらず、それを終えて駆けつけてくださった先生が多くいらっしゃったとのこと。ありがとうございました。

社団の学習塾協会会長の伊藤政倫先生の来賓挨拶、聖徳大附属高校の川並芳純先生の乾杯で始まった懇親会はテーブルごとのお話が盛り上がったようです。毎年行っていた全員による１分間スピーチはありませんでした。また、残念なことは毎年会を盛り上げてくださる谷村会長が、石巻のボランチア活動に予定していた者が欠席したため急遽行かざるを得なくなり欠席されたことです。スライドで石巻出前寺子屋のレポートが流されましたが寂しさはぬぐいきれませんでした。でも、出席の予定のなかった駒込中学高校の河合先生から戴いたお話は皆さん感銘を受けました。私学側ももっと私塾に協力することで、教育業界全体を発展させたい旨のお話でした。具体的に塾で行われる模擬面接に先生が出席されて指導に当たっておられるとのこと。「私塾私学の垣根を越えて・・」これこそ今日の私学情報交換会の主旨です。よいお話をありがとうございました。

会の終盤は毎年恒例の仲野先生による「私塾ネットの１年」と題する感動の手作り映像にハッピーな気持ちにさせられます。午前中に行われた会の様子も入った本当に素晴しいものでした。

梶原さんから桂馬さんにねぎらいの言葉が。

最後にネット副理事長梶原先生による挨拶ですが、まずは永年この会を実行委員長として支えてこられた桂馬先生に温かい拍手を忘れない梶原先生の配慮に感謝な気持ちになりました。

これでお開きと思ったとき、今日のサプライズです。何と石巻に行かれていた谷村先生が急遽戻られ感謝の挨拶をされました。先生のバイタリティーある行動に驚くとともに、これがネットの原動力、絆の強さと感動いたしました。

報告：私塾ネット広報部長　大住 明敬

エリア通信

エリア九州　代表　林　芳子
（宮崎県・Hayashi塾）

猛暑だった夏が終わり、心地よい風を感じるこの頃です。今年は台風が多く、学校の体育祭が延期されて平日に行われたり、地区の秋祭りの日が大雨で途中で中止になったりで、たぶん、生徒たちは、生活の中のメリハリがつかないまま、９月が終わってしまいました。その上、十月上旬は、二学期制導入のために秋休み。・・・とても中途半端な感じです。

夏休みの終わりごろ、地元では、不登校の生徒の割合が増えているというニュースがありました。そのときは、あまり関係ないと思って聞いていただけでしたが、夏休みが終わってしばらくすると、保護者の方から、「子供が学校に行きたがらない。（または、しばらくは行きたがらなかったのだが、この頃やっと行きだした）」ということを聞くようになりました。

これを書いている今は、十月。たいていの子は、九月中に何とか登校するようになりましが、まだ一人だけ、学校に行くことのできない塾生がいます。「まさか！」と思える子で、時間を気にせず深夜まで話したり、一緒にウォーキングをしてみたりしました。そのときは何でも話せ、様子も明るいのですが、朝になるとどうしても制服を着ることができないようです。今までで初めての経験ですが、私自身、心が重く、まして保護者の方は・・・と思うと、本当に心が痛みます。

９月は、そういう状態のまま、過ぎました。焦っても仕方がないとは思うのですが、塾でも空席になってしまった（しばらくは通塾だけはできていた）その子の席を見るたびに、何とか良くなる方法はないものか、と、心を痛める毎日です。

エリア中国　広報部長　西本　雅明
（広島県・パワーゼミ西本塾）

７月の定例会は福山で「校長先生を知ろう！」というタイトルで行いました。福山市内の5つの私立中高が参加してくれました。我々が準備した質問に対して校長先生にアドリブでフリップを使って答えていただくという趣向です。できれば建前ではなく校長先生個人の考え方を知りたいと思っていたのですが、書くという作業が災いしたのか、本音を吐露していただくまでには至らなかったように思います。しかし日頃、塾運営にかかわる情報交換や研修、そして会員相互の親睦を主にしている『私塾ネット中国』が、たまには外に向けて情報を発信したり、メンバー外から刺激を受けることは大切だと思いますから、まずは良い企画だったと考えています。少なくとも福山市内の私学は私塾ネットを認知してくれたようです。広島県内には協同組合やNPO団体など学習塾の集まりはたくさんあります。その中でも、広島市内の「広島私塾連盟」や福山市内の「教育ネット21」などの学習塾団体は公立私学を問わず学校と活発に交流をしています。ただ、僕自身も所属している団体が多すぎて、「今日は（私塾ネット）で来ました。」「今日は（学習塾協会）で伺いました。」などと使い分けているのですが、学校側からすれば「なんや、ようわからん。」ということになるらしくて、特に今年の春から夏にかけては、かなりややこしいことになりました。なんとかならないかなぁ、と考えてしまいます。

さて、私にとっては自塾を捨ててでもやりとげねばならなかった10月8日の「塾の日シンポジウム（学習塾協会主催）」は無事終了しました。ご参加いただけました皆様、本当にありがとうございました。実は準備をしながら気がついたのですが、主要な実行委員は、すべて私塾ネットのメンバーでした。私塾ネットはなんと頼りがいのある団体なのでしょう。皆様、これからも宜しくお願い致します。

エリア四国　十亀　幸雄
（愛媛県・そがめ塾）

広報39号の事務局通信に、来年度の私塾ネット全国研修大会は香川県で4月21日実施する方向と、仲野十和田事務局長が書かれています。今年度、湯口兼司先生が第４代の私塾ネット新理事長に就任されたことや、また、私塾ネットの中でエリア四国が活発に活動している地域の１つであることなどがそうした気運を高めているものと思われます。

エリア四国では、春秋年２回の研修会を中心に活動しています。春は私塾ネット全国研修大会などと連動し県外の塾で研修させていただき、秋は地元四国各地の塾団体の方々と合同で研修会を実施しています。この１年間の活動は教務力のアップがテーマで実施しています。まず、昨秋の平成23年10月30日には愛媛県の道後温泉で、愛媛学習塾連盟の先生方と共に『私塾ネット四国・職員研修会』を実施しています。芳野敬三先生（聖カタリナ高校校長）に「私塾と私学の未来」をテーマにお話頂きました。また教科研修が湯口兼司先生（湯口塾　英語）、近藤寛康先生（文化の森スクール　国語）、楠山敬志先生（楠山ゼミナール数学）を講師に実施されました（広報37号参照）。平成24年春の研修会は、私塾ネット設立10

周年大会と連動し、誉田進学塾（千葉市）にて「合格率N0.１を生み出す教務力の秘密」のテーマで研修をさせていただきました(広報38号参照）。

今年度秋の研修会は、10月28日、香川県丸亀市で、昨年度に引き続き教科研修を中心にその実施を計画しており、広報41号が刊行される際には、これの成果が報告されているものと思われます。

こうしたエリア四国の活動は、湯口兼司先生や寺嶋謙次先生（エリア代表）を中心に、25名のエリア四国の会員の協力の下で進められてきたものです。来年度香川で実施予定の全国研修大会の概要はこれから作成することとなりますが、こうしたこれまでのエリア四国の活動を土台になされることであり、この１年間のエリア四国の成果が問われるものでもあります。

多少、関連した事柄について述べさせていただきますと、2009年2月に山口恭弘先生を中心に発足した「私塾実践同攷会」は、四国の私塾ネット会員を中心に結成されたもので私塾ネットの会員がその半数以上を占める会です。この会の目的は、最近の私塾ネット四国の研修テーマと同じ教務、授業研究に主たるものがあり、この４年間、月刊で『じっせんニュースレター』を48号まで、年刊で会誌『実践』を3号まで刊行しています。こうした成果が、少しでも、私塾ネットの会員の皆さんの参考にしていただければと、会誌については無料で私塾ネット会員の方には配布させていただいています。ご関心ある先生方がおられましたら是非、私方（TEL089-905-2925）にご連絡下さい。来年度研修会は是非、弘法大師の島、四国においで下さい。

エリア近畿　代表　杉山　信良（大阪府・栄光塾）

前回の報告から、１０月までにあった私塾ネット関連の近畿での動きを報告します。

まず、私塾ネットの賛助会員と名乗る業者さんが二社、弊塾に来てくださいました。そのうちの一社であるエドベックの千葉さんは、二度も訪問くださり、来年の秋に、エドベックとタイアップして、エリア近畿主催のセミナーができないものかと現在画策中です。

しばらく前になりますが、二月頃に群馬から碇先生が来られて、中三生（現高１生）に出前授業をしていただきました。その際に、大学を辞めようかと悩んでいる卒業生に「卒業した方がいいよ」とお話ししていただきましたが、結局彼は、わずかな単位を残して大阪教育大を中退し、現在うちの教室で講師をしながら、次の進路を探しています。碇先生とは、先日も広島までご一緒させていただきましたが、報告しそびれておりました。この紙面をお借りして報告いたします。

夏期講習真っ只中の八月八日には、梶原先生ご夫妻がいらっしゃいました。たまたま担当のクラスの子どもたちがサッカーの合宿で、休みだったので、出席してきた生徒たちは、講師に任せ、新大阪駅までお迎えに上がりました。事前に「お好み焼きのうまい店」のリクエストいただき「司馬遼太郎記念館に行きたい」の二つを叶えるため、司馬遼太郎記念館の近くの「てらまえ」という東大阪で一番評判の高いお店に行きました。お盆前の金曜日の司馬遼太郎記念館は、ほとんど貸切状態といっていいような有様で、これまで何度もお客様をご案内してきましたが、あんなにゆったりと見学できたのは今回が初めてです。

その後私の教室を見学いただき、授業後には奥様抜きで、大阪の夜の街を梶原先生と二人で回りました。ホテルまでお送りした別れ際に、「今度Nさんとゆっくり行きたいですねえ」とおっしゃられていたのが印象的でした。

この記事をお読みくださった私塾ネットの先生方は、大阪にお越しの際には、ひと声お掛けください。全力で接待させていただきます。

エリア中部　代表　松本　紀行（長野県・チャレンジ学院）

今回は中部エリア10塾の中の紅一点、渡辺凡子さんの塾をご紹介させて頂きます。私どもとは同じ松本市内にあって、それもごく近くで、元気いっぱいに活動されている塾さんです。

こんにちは、信州教育学園の渡辺です。私塾ネットに入会し、8年が経ちます。毎年4月の研修会に参加させていただき、いつもハッと目を覚まされる思いで講演を聞いております。そして何より情熱を持って塾の仕事に取り組んでいらっしゃる全国の先生方のエネルギーに触れられることを大変嬉しく思っております。

さて、当塾は西に北アルプスを臨む長野県松本市にあり、高校受験を中心として小中学生が通う塾です。今日は、特色を一つとこだわりを一つご紹介いたします。特色としては、読書教室を併設しているということです。勉強だけではなく、もっと深いところから子供達の精神面を育むことができたらと思い10年前に始めました。毎月少しずつ本を買い足し千冊を超える蔵書となりまし

た。お母さん方にも「図書館代わりに使って下さい。」と呼びかけているので、子供さんと一緒に読書してる姿も見られます。私自身本が好きなので、本に囲まれてわくわくしています。こだわりとしては、生徒達に何か一つでも「やったー。」という達成感を経験してもらいたいということです。その一つに長期休みに行うコンテストがあります。漢字コンテスト、歴史コンテスト、英単語コンテストです。どれも問題と解答を事前に渡すので、努力すれば誰でも満点が取れます。成績優秀者は、玄関の掲示板と学園だよりに名前を発表します。この「だれでもできる」というものを沢山用意して、まず自信をつけてもらいたいと思っています。せっかくこの塾に来てくれたのだから、子供達が良くなることを全力で提供したいと思い、日々奮闘しています。最後に、この仕事をしていて幸せだなあと感じることをお話したいとおもいます。例えば、生徒達と一緒に漢詩を朗読したり、英語の教科書で「葉っぱのフレディ」を読んで、「生きる意味ってなんだろう。」とか「死ぬってどんなことだろう。」と語り合うとき（中3生最後の授業）など、このような人類の遺産ともいえる学問に触れる時間を生徒達と共に過ごしている時、しみじみと「しあわせだなあ。」と感じます。

湯けむりの会でのひとコマ。紅一点の渡辺先生と男性軍は後列左から石川、三松、原、松本、鈴木先生。

さる9月16日、東京プリンスホテルで催された出版記念祝賀会に参加させていただきました。大変盛大なパーティーで、出席者の顔ぶれも多士多彩で感嘆致しました。佐藤先生のご努力には心から敬意を表します。加えて、佐藤先生を支えた菅谷先生の悲壮感漂う壮絶なお話に、大変心を打たれました。「ありがたい」そんな想いでいっぱいです。

出版記念祝賀会の翌週、チャレンジ学院「夏期大学」を開催しました。全社員参加の研修会でして、テーマは「そこまでやるの、チャレンジ学院」。目的は全社員のベクトルの統一です。もしお客さんがいたら、厳しい「チャレンジ検定」と、和やかな「食事会」が印象に残ったことでしょう。高原のさわやかな冷気に包まれて、あっという間の研修でした。外に出るとまぶしい太陽と、さわやかな冷気が身を包むんですね。いつまでも外で景色を楽しんでいたいのに……と思うくらい、すばらしい高原の秋日和でした。恒例の学院長講話、生徒の接し方実演、ワザの公開。そして表彰・閉会式へと流れ、1日が終了致しました。今年の夏期大学の最大の見どころは、「夢ノート」の完成です。学力が向上するための基本理念を、100ページに渡りまとめたものです。身近な学院生や、卒業生の貴重な実例も沢山載せてみました。この人づくりの教科書とも言える「夢ノート」を使って、一人でも多く夢を持った子供を育てたいと願っております。

ところで、最近私は「環境作り」と言うものにとりつかれておりまして、八ヶ岳の麓、茅野市にある1教室をリニューアルオープン致しました。また、温泉地として市民から親しまれている諏訪市というマチがあります。ここにある教室は校舎が老朽化しまして、生徒たちから「幽霊屋敷」と呼ばれておりました。「幽霊屋敷と言われても、指導力さえよければ、いいじゃん」とタカをくくっていたんですが、生徒がどんどん減ってきたんですね。そこで生徒がびっくりするようないい環境にしなくてはと考えたわけです。その教室のある土地を買い取り、幽霊屋敷を解体し、新たな塾舎を立てることにしました。3ヶ月ほどかかってなんとか契約を完了し、今、境界線の立会調査をしているところです。完成は来年の3月。気の長い話ですね（^^）。最近はセンターピンを押さえておけば、「世の中ってどうにかなるもんだ」と達観（あきらめ？）ています。「どうにかなるは無責任」と思いつつも、この考えを楽しんでいます。移転オープンも新設オープンも「学院内から創る変化」であって、社員の心を変化させ、子供を変化させるものなんですね。これを自塾の第一の強みとして生徒募集につなげたいなあ……と心を躍らせております（^^）。

最後になりますが、今、私塾ネットは湯口新理事長のもとに結束し、新たな時代を切り開こうとしています。塾と言うものが社会にやっと認められるようになってきました。私塾ネットの前身を含め、幾多の団体が血の滲むような努力をされた結果だと思います。その各種団体の中核を担う私塾ネットが、今後益々発展されんことを願ってやみません。

エリア関東　代表　長江　勝秋
（神奈川県・英数学院）

大変遅くなりましたが、ご挨拶申し上げます。

今年３月、私儀、脳卒中にて倒れ、手術・ＩＣＵ・リハビリのため８月まで入院、９月５日に退院しました。突然のことで、私塾ネット会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。こころからお詫び申し上げます。また、わざわざ、入院中、病院まで見舞いに来ていただいたり、お手紙やお電話で励ましていただきました皆様。この場を借りて心から御礼申し上げます。

いまだ左手足は自由になりません。

現在、週２回の通所リハビリ及び訪問リハビリのお世話になり、１日も早く元通りに活動すべく、戦っております

さらに、一日５０ｍの歩行訓練、１７段の階段上り下り２回・言語聴覚訓練、週１冊の読書を自らに課し、奮励努力しております。

私の愛読書の詩集の中に、「建設は死闘、破壊は一瞬」との一節があります。試練は突然やってきますが、必ず乗り越える。と確信して戦って参ります。１月には現場に復帰します。皆様にお会いできる日を楽しみに致しております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

エリア関東　代表代行　鈴木正之
（東京都・いぶき学院）

9/29、関東代表の長江先生（脳内出血から半年、現在自宅療養中）のご自宅にお邪魔しました。彼は早期の復帰を熱望しており、「広島に行きたい」、「四国に行きたい」、そして10/21の「私学情報交換会に出席したい」と言います。少なくとも１月のニューイヤーパーティか４月の全国研修会では元気な姿が見られると思います。

さて、9/2にＮＰＯ塾全協の私立中高進学相談会が開催されました。新宿ＮＳビルで行われるこの相談会は私塾ネットの協賛行事のひとつです。私塾ネット関東の先生方も、毎年この相談会のお手伝いをしています。今年は開会式で私塾ネットの代表として、顧問の安藤進理先生が紹介されました。写真は会場内の「何でも相談コーナー」です。右から安藤光先生、宝田先生、監物先生、桂馬先生です。関東は多くの塾団体が存在しています。その塾団体がそれぞれの得意な分野で力を発揮し、業界全体が成長していけるよう私塾ネット関東も協力していきたいです。

直子先生の育児日誌

エリア関東広報部長　髙橋直子
（千葉県・津田沼学院）

私塾ネットの皆さん、こんにちは。出産以来中々ネットの活動に参加できず申し訳ありません。日々、育児、家事、仕事に追われており想像以上の忙しさで、今も赤ん坊を膝に抱えあやしながらこの原稿を書いております。

さて前回の広報以降、主だった事柄について書いてみたいと思います。

◎お宮参り　心身ともに生後30日でお宮参りをするような状態ではなかったので40日を過ぎた頃何とか時間を見つけお宮参りをすることに。この日は日曜日でテスト前だったため10時から14時まで対策をした後、写真撮影をして地元にある船橋大神宮へ行きました。すると祈祷の最中になんと息子が大きなおならをしたのです！私たち以外にも2組家族がいたので非常に恥ずかしかったのですが、その状況では何もできずただただ笑いをこらえて下を向いておりました。その日は祈祷中に大きな地震もあり、なんだか落ち着かないお宮参りとなりました。

◎お食い初め　この頃はようやく育児にも慣れ始め、いくらか余裕が出始めたので100日目に行うことができました。そこに用意された美味しい食べ物を当人ではなく大人が楽しむというありがたい行事です(笑)。

これで何とか一通りの行事が済み、ほっとしております。

◎寝返り　当たり前ですが、大人と違って赤ちゃんの寝返りは成長の証なのですね。自分の赤ちゃんの寝返りを見るまで、こんなに寝返りが出来ることが嬉しいとは思いませんでした。あおむけからうつぶせになり、最初はその後何もできずに泣いていた子もあっという間に上手に腕を抜き、自分で好きな体勢をとれるようになる･･･。どんどん成長する姿というのは感動的ですね。

エリア東北 広報　扇野 明弘
（青森県・学習塾TRM登竜門）
第２回　定例会報告

8月26日　日曜日　エリア東北の第２回定例会が、むつ市の関教育学舎にて３時からありました。

関先生は、自宅を改造した程度と言っていましたが、広いこと、広いこと、私の想像を遥かに超えていました。

出席者は渡部・関・安藤・福士・佐々木・扇野の6名でした。

決定事項は、

①平成２５年度活動は９月末までに企画書・予算案を代表に提出し、その後総会にて決定すること。

②エリア東北では当分会費を集めないこと。

③高校入試の後に第3回の定例会を実施すること。

④平成２５年度の総会は、４月の第１日曜日あたりに行うこと。

上記以外にも、周辺の学校・父兄・生徒の事などの情報交換などもあり、２時間があっという間に過ぎました。

次は、メインの懇談会、関先生が用意をして下さった料亭は、次から次と料理が運ばれ、その全てがとても美味しく、安藤先生に

「私塾ネット広報に、なんて失礼な事を書くの!見たままの事言っただけなのに!」

と怒られましたが、料理の味がすべてを忘れさせてくれる程でした。

「また、むつでやりたいですね!」と心の中で言っている自分に気付きました。

また、佐々木先生の奥さんと息子さんが、親睦会終わる寸前ではありますが、顔を出して頂き、一層その場が和んだ事は言うまでもありません。

佐々木先生が帰宅してしまった２次会ではありますが、関先生の送迎付きのカラオケボックスでは、‘自称歌手の渡部先生’に続き、‘石原裕次郎・橋幸夫そしてその時代背景などの解説も入れて下さった上手な歌声の関先生’、‘なんか可愛かった、なんてたってアイドルの安藤先生’、‘明菜にも劣らない、セカンド・ラブの福士先生’と芸達者が勢ぞろいでした。

笑顔がはじける、美味しい楽しい懇親会。左から安藤、福士、佐々木、関、渡部先生。

私もここは名誉挽回と‘西城秀樹の傷だらけのローラ’を、‘ローラ’と‘水無子‘を差し替えて、いつになく情熱的に歌いましたが、「なんで私が傷だらけなの?」、背中に汗が吹き出した最高の盛り上がりで終了することが出来ました。

むつまでの行きと帰りの車中での、安藤先生と福士先生の会話も楽しく、昔の旧友と会って、会話しているかのような楽しさと安心感がありました。

次の定例会も、来年もいつまでもこんな楽しい会が続いたらなと思うばかりでした。

閑話休題

編集長　谷村志厚

日本の経済は一流、政治は二流と言われて久しい。昨今の状況をみると経済は二流、政治は三流になり下がったように思える。では教育はどうかというと、ゆとり教育以降の学力低下現象にあるように、とうの昔に二流に格下げになっている◆しかしながらそんなご時世にあって、山中伸弥京都大教授がノーベル医学・生理学賞に輝いたのは光明であった。またも京都大学かと思えば山中先生自体は神戸大の出身とか。超エリートというわけではなく、しかも50歳の若さだという。それだけに今回の受賞に、よりいっそうの価値を感じるのは、自分だけではないであろう◆日本人のノーベル賞というと京都大学の印象が強い。日本人ノーベル賞受賞者は山中先生で19人目。出身大学別に見てみると、じつは一番多いのは京大ではなく、やはり東大7名。京大は2番目の5人であった。ついで名大の2名、あとは神戸大、北大、長崎大、東北大、東工大各1名ずつである◆ノーベル賞イコール京大という先入観は、物理・化学・医学といった自然科学分野での受賞に特化しているからであろうか。東大は川端康成や大江健三郎といった文学賞、はては佐藤栄作の平和賞といった人文系の受賞者が多いのである。なるほどと納得したが、いま一度名簿を見て、あらら全員国立大の出身者ではないか！？私学出身の小生としていささか面喰った。これはいったいどう理解すればいいのでしょうかね◆今号のトピックス記事は佐藤先生の「学習塾百年史」の出版報告会である。小生もこの会に出席したのだが、その列席者には驚かされた。普段経験している塾団体の会合とは、顔ぶれがまるで違うのである。教育関連の世界の多士済々の重鎮が、全国から参集している。そして皆さんが声をそろえて佐藤先生の功績を称え、ねぎらいの言葉を贈られた。以前から佐藤先生のことを「古事記」の編纂になぞらえて、塾業界の「太安万侶」と申し上げてきた。今回の大著の刊行により、この比喩は完成したなと感じた次第である。それにしても、佐藤先生のお顔の広さには驚かされた。

私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田(ナカジュク)

１０月８日（月・祝）、（社）全国学習塾協会主催の「塾の日記念会」が、広島にて行われました。前日の夕方、現地へ入った私は、およそ３０年ぶりに『広島平和記念資料館』を訪れましたが、掲示されている写真の光景は、正に『東日本大震災』の様子に良く似ていました。懇親会の際に、東北地区の大沼先生が「戦後の焼け野原の風景と、震災後の風景はとても良く似ている。けれど、戦争は人災だから防がなくてはいけません。」と言われていたのが印象的でした。

さて、会場に足を踏み入れてみると、実行委員長の西本雅明先生を始め、中心になって企画運営されている方々の多くが、私塾ネットのメンバーでした。前日には河浜一也先生が「宮島巡り」のガイドを務められましたが、大好評でした。参加した方からのお話を伺うと、「無理をしても行けばよかった」というのが、正直な感想です。近いうちに私塾ネット主催で是非お願いしたいものです。

基調講演は、お馴染みの下村博文氏。演題は「塾に物申す！」。ご本人が付けたのではないと言われていましたが、その題目に感化されてか、いつもにも増して、熱がこもっていたような気がします。

「塾は、成績を上げることは当たり前だが、それ以外の付加価値が必要だろう。例えば、塾に通うようになったら、挨拶がきちんと出来るようになった。敬語が使えるようになった、など。また、現在、自分がダメ人間と思っている高校生が、アメリカ⇒２１％に対して日本⇒６６％であるが、これは異常である。勉強だけ教えるのではなく、将来に向けての人間教育を塾でしていかなければならないと思う。塾は、行動力があるので、いろいろなことができる。それが、学校と違うところなので、頑張ってほしい」と。

懇親会２次会でのラウンジで、隣に座らせていただく機会がありました。私は、博文氏の選挙区で生まれ育ったので、町会のお神輿を一緒に担いだり、塾に来ていただいたり、地域のイベントでもお会いする機会があり、そんな話で盛り上がりましたが、この日ほど相通ずるものを感じたことはありませんでした。

「来年は文科大臣になっても、この会に来てくださいね」と依頼すると、「必ず来ます」と言っていただきました。楽しみです。実行委員の皆様、ありがとうございました。

《今後の主な行事予定》

◎エリア関東　定例研修会

日時　１１月１５日（木）　10：30～
場所　中央大学駿河台記念館（予定）

◎エリア北海道定例研修会

日時　平成２４年１１月１８日（日）15：00～
場所　札幌進学教室

◎エリア関東ニューイヤーズパーティー

日時　平成２５年１月２０日（日）
場所　未定

◎全国研修大会

日程　平成２５年４月１４日（日）
場所　丸亀または、道後
基調講演　喜多川泰氏

フォート・ほっとコラム

秋色　　＜秋の景色＞

安芸の宮島、秋の景色です。
今年は大河ドラマ平清盛人気もあって、この宮島を訪れる人は例年になく多いと聞きます。
これから秋が深まるにつれ、朱塗りの鳥居や神殿、五重塔などがもみじなどの紅葉とマッチして、とても美しい島へと変身していきます。毎年この美しさをカメラに収めようと訪れるのですが、この時期は休日ともなれば駐車場もないほど人と車であふれます。

先日塾の日の大会が広島で行われました。そしてその前日には河浜先生による「宮島歴史散歩会」があり、この地を散策され宮島の美しさとその歴史に触れ、有意義なひと時を過ごされた方もあるのではないかと思います。
これから十一月の前半にかけて紅葉の季節となり、またこの日本の美しさを愛でるひとで賑やかになることでしょう。
「年々歳々秋色相似たり、年々歳々秋色同じからず」。
今年の秋はこの宮島がどんな秋の美しさを見せてくれるか、いまから楽しみです。

秋色　　＜秋の気配＞

（文＆写真：城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校	東京都渋谷区本町3-2-2	村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生 TEL03-3376-2244
江戸川学園取手中学高等学校	茨城県取手市西1-37-1	竹澤　賢司先生 TEL0297-74-8771
十文字中学高等学校	東京都豊島区北大塚1-10-33	卯木　幸男先生 TEL03-3918-0511
東洋高等学校	東京都千代田区三崎町1-4-16	丸茂　隆 先生 TEL03-3291-3824
桜丘中学高等学校	東京都北区滝野川1-51-12	品田　健 先生 TEL03-3910-6161
聖徳大学附属中高等学校	千葉県松戸市秋山600	川並　芳純先生 TEL047-392-8111
麹町学園女子中高等学校	東京都千代田区麹町3-8	大野　博人先生 TEL03-3263-3014
春日部共栄中学	埼玉県春日部市上大増新田213	宇野　禎弘先生 TEL048-737-7611
大成高等学校	東京都三鷹市上連雀6-7-5	岡田　政雄先生 TEL0422-43-3196
東京学園高等学校	東京都目黒区下目黒6-12-25	須藤　勉　先生 TEL03-3711-6641
東京立正中学高等学校	東京都杉並区堀ノ内2-41-15	藤井　教戒先生 TEL03-3312-1111
八雲学園中学高等学校	東京都目黒区八雲　2-14-1	横山　孝治先生 TEL03-3717-1196
関東第一高等学校	東京都江戸川区松島2-10-11	副田　康孝先生 TEL03-3653-1541
武蔵野中学高等学校	東京都北区西ヶ原4-56-20	楠木　文史先生 TEL03-3910-0151
和洋国府台女子中学高等学校	千葉県市川市国分4-20-1	西山　紀子先生 TEL047-371-1120
新渡戸文化中学高等学校	東京都中野区本町6-38-1	鈴木　泰　先生 TEL03-3381-0196
文京学院大学女子中学高等学校	東京都文京区本駒込6-18-3	嶋田　栄司先生 TEL03-3946-5301
東洋大学付属京北学園	東京都北区赤羽台1-7-12	野中　政廣先生 TEL03-3941-6253
大森学園高等学校	東京都大田区大森西3-2-12	矢部　一紀先生 TEL03-3762-7336
東京成徳大学中学高等学校	東京都北区豊島8-26-9	増澤　文徳先生 TEL03-3911-2786
日本工業大学駒場中学高等学校	東京都目黒区駒場1-35-32	河村　文夫先生 TEL03-3467-2130
青稜中学高等学校	東京都品川区二葉1-6-6	笠松　芳幸先生 TEL03-3782-1502
東京女子学園	東京都港区芝4-1-30	実吉　幹夫先生 TEL03-3451-6523
駒込中学高等学校	東京都文京区千駄木5-6-25	河合　孝允先生 TEL03-3828-4141
愛国中学高等学校	東京都江戸川区西小岩5-7-1	高橋　英夫先生 TEL03-3658-4111
日本橋女学館中学高等学校	東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6	園田　義宣先生 TEL03-3662-2507
安田学園中学高等学校	東京都墨田区横綱2-2-25	福谷　隆芳先生 TEL03-3624-2666
科学技術学園高等学校	東京都世田谷区成城1-11-1	船津　和良先生 TEL03-5494-7711
日本音楽高等学校	東京都品川区豊町2-16-12	伊庭　崇　先生 TEL03-3786-1711
立正中学高等学校	東京都品川区大崎4-2-16	今田　正利先生 TEL03-3492-4416
上野学園中学高等学校	東京都台東区東上野4-24-12	高橋公美子先生 TEL03-3842-1021
二松学舎大学付属高等学校	東京都千代田区九段南2-1-32	舘野　宏　先生 TEL03-3261-9288
村田女子高等学校		
村田学園小石川女子中学校	東京都文京区本駒込2-29-1	小林　隆司先生 TEL03-5940-4187
自由学園（中等部・高等部）	東京都東久留米市学園町1-8-15	更科　幸一先生 TEL042-422-3111
帝京中学高等学校	東京都板橋区稲荷台27-1	大谷　幸男先生 TEL03-3963-4711
京華学園	東京都文京区白山5-6-6	今野　巌　先生 TEL03-3941-6493
千代田女学園	東京都千代田区四番町11	長尾　和雄先生 TEL03-3263-6551
日出中学高等学校	東京都目黒区目黒1-6-15	大江　律夫先生 TEL03-3492-3388
目黒学院中学高等学校	東京都目黒区中目黒1-1-50	阿部　幸彦先生 TEL03-3711-6556
共栄学園中学高等学校	東京都葛飾区お花茶屋2-6-1	松宮　博　先生 TEL03-3601-7136
東京家政学院中学・高等学校	東京都千代田区三番町22	滝沢　保一先生 TEL03-5245-6534
東京女子学院中学・高等学校	東京都練馬区関町北4-16-11	宗内　信二先生 TEL03-5903-9559
(株)創開コミュニティー	千葉県柏市柏2-7-22-202	小林　和光様 TEL04-7164-6511
ドラゴンフィールド㈱	千代田区神田錦町3-23錦町ビル8	和田　功　様 TEL03-5282-3174
㈱パワーコンサル	渋谷区渋谷1-7-7 青山通りビル12Ｆ	大島　義則様 TEL03-5928-1686
㈱私塾界	豊島区東池袋1-39-1三善ビル	山田未知之様 TEL03-3987-0838
㈱ＳＲＪ	港区芝公園2-4-1柴パークB館102	板橋　玲　様 TEL03-5425-6534
デザインオフィススズキ	千葉県柏市柏687-6	鈴木　学　様 TEL04-7164-8276
(株)ぱど	品川区大崎2-13-17 目黒東急ビル	田中　和博様 TEL03-5155-8122
(株)エドペック	横浜市中区山下町25-15 ﾌｭｰﾁｬｰ山下	千葉　貴広様 TEL045-226-5494
(株)学研ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾅﾙ	品川区西五反田2-11-8　9F	伊藤　龍男様 TEL03-6431-1337